

#69 The Mermaid and the Red Candle Furigana Script

あか 『赤いろうそくと人魚』 にんぎよ

むかしむかし、北の海に、一人の女の人魚がいました。

北の海は深くて、とても冷たい海でした。

人魚は、岩の上に座って、月を見ながら考えました。

「人間の世界は、きっとあたたかくて、やさしいところでしょう。」

人魚のお腹の中に赤ちゃんがいます。

人魚は思いました。

「この子には、冷たい海で生きてほしくない。」

そして、人魚は、赤ちゃんを人間の世界で育ててもらいたいと思いました。

海の近くに、小さな町がありました。

その町に、おじいさんとおばあさんがいました。

2人は、ろうそく屋をしています。

おじいさんはろうそくを作つて、おばあさんはそれをお店で売っています。

町の神社に行く人たちは、このお店でろうそくを買って行きます。

ある夜、おばあさんは神社に行きました。

すると……

かいだん した あか
階段の下に赤ちゃんがいました。

おも
おばあさんは、思いました。

あか
「まあ、赤ちゃんが…かわいそう…」

あか いえ つ かえ
おばあさんは、その赤ちゃんを家に連れて帰りました。

いえ あか からだ み
家で赤ちゃんの体を見て、びっくりしました。

あか あし さかな かたち
赤ちゃんの足は魚のような形をしていました。

でも、おじいさんとおばあさんは思いました。

あか かみ
「この赤ちゃんは、神さまからのプレゼントだ。」

あか たいせつ そだ
そして、赤ちゃんを大切に育てるにしました。

おんな こ おお むすめ
女の子は大きくなると、とてもきれいな娘になりました。

じぶん あし ほか ひと ちが おも いえ そと で
でも、自分の足が他の人たちと違うので、はずかしいと思って、家の外に出ませんでした。

むすめ しごと てつだ え か
娘は、おじいさんの仕事を手伝って、ろうそくに絵を描くようになりました。

さかな うみ くさ え あか え ぐ じょうず か
魚や海の草の絵を、赤い絵の具で上手に描きました。

まちじゅう ひと か く
そのろうそくは、とてもきれいで、すぐに町中の人が買いに来るようになりました。

え じんじゃ も うみ じこ
「この絵のろうそくを神社に持っていくと、海で事故にあわないんだよ。」

え まちじゅう ひと にんき
その絵のろうそくは、町中の人たちに人気になりました。

むすめ おも
娘 は思いました。

わたし にんげん
「 私 は人間じゃないけど、おじいさんとおばあさんに大切にしてもらえてうれしい。」

ある日、南の国の人々が町にきました。

ひと むすめ み おも
その人は娘を見て、思いました。「人魚だ！」

そして、おじいさんとおばあさんに言いました。

にんぎよ わたし う かね
「この人魚を私に売ってください。お金たくさんあげますよ。」

おじいさんたちは、もちろん断りました。

ひと い
でも、その人は言いました。

にんぎよ そだ ふこう
「人魚を育てると不幸になりますよ。…」

おじいさんとおばあさんは、その言葉を信じました。

ひと かね むすめ う
そして、その人からお金をもらって、娘を売りました。

むすめ な い
娘は泣きながら言いました。

わたし
「おじいさん、おばあさん。私はどこにも行きたくない！ここにいたい…。」

でも、だれも娘の話を聞いてくれませんでした。

むすめ さいご あか え つく
娘は最後に、赤い絵のろうそくを作りました。

じぶん かな きも つく さいご
それは、自分の悲しい気持ちで作った、最後のろうそくでした。

むすめ ふね の い
そして、娘は船に乗って行ってしまいました。

よる
その夜…

だれかがおじいさんとおばあさんの家にきました。

おばあさんが戸を開けると、髪の長い女がいました。

女は言いました。「ろうそくをください。」

女は赤い絵のろうそくを見て、言いました。

「このろうそくをください。」

おばあさんはお金ももらいました。

でも、よく見ると、それは貝がらでした。

おばあさんは、家の外に出ました。

でも、もう女はいませんでした。

よるうみおおあらし
その夜、海は大嵐でした。

むすめのふねうみしづ
娘が乗った船は、海に沈んでしまいました。

それから、不思議なことがありました。

まちじんじゃあかえつかよるおおあらしお
町の神社で赤い絵のろうそくを使った夜は、かならず大嵐が起きました。

まちひといあかえこわのろ
町の人たちは言いました。「赤い絵のろうそくは、怖い。呪いだ…。」

まちひとじんじゃい
町の人たちは神社に行かなくなりました。

そして、おじいさんとおばあさんはろうそく屋をやめました。

よる ひ あか え うみ まち じんじゃ
でも、夜になると、火がついた赤い絵のろうそくが海から町の神社にゆっくり
うご まち ひと み
動くのを、町の人たちが見ました。

きた うみ ふか つめ
北の海は深くて、とても冷たいです。

かな つき ひかり しづ うみ て
そして、悲しい月の光が、静かに海を照らしています。

にんぎょ かあ こころ も
人魚はやさしいお母さんの心を持っていました。

にんげん せかい せかい
でも、人間の世界は、やさしい世界ではありませんでした。

あか ひ いま うみ うえ かな かあ あい ゆ
赤いろうそくの火は、今も海の上で、悲しいお母さんの愛のように、揺れて
います。

ありがとうございました。
では、また！

Notice:

- Unauthorized reproduction or distribution of this material is prohibited.
- This PDF is for personal use only.
- For any inquiries or permissions, please contact us.